なゝみよ

2016 夏
SUMMER

奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌
NARAYAMA
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

＜題字＞名誉教授　池田 桂鳳

特集

学び続ける教員を養成するための地域融合拠点の形成

―学校現場に求められる教員養成へ―

羅針盤
全学ポートフォリオシステム

クローズアップ
絵画が生まれる現場で考える
美術教育講座 狩野宏明准教授

ラボ・レター
音楽教育専修
北條美香代研究室

なっきょん's CLUB企画
授業紹介

ならやま

奈良教育大学 広報誌
NARAYAMA
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S SEASONAL PUBLICATION
＜題字＞名誉教授　池田 桂鳳

CONTENTS

2 **特集**
学び続ける教員を養成するための地域融合拠点の形成
— 学校現場に求められる教員養成へ —

7 **羅針盤**
全学ポートフォリオシステム

10 **クローズアップ**
絵画が生まれる現場で考える
美術教育講座　狩野宏明准教授

13 **ラボ・レター**
音楽教育専修　北條美香代研究室

14 **ひと・あれ・これ**
奈良市立済美南小学校 中村友弥さん

15 **なっきょん's CLUB企画**
授業紹介
地域に根差したグローバル教員の育成
—博物館を活用した国際理解教育—

17 **留学生レポート**
ロックヘイブン大学（アメリカ）富山俊佑さん、
ブカレスト大学（ルーマニア）チリビウ ソリナさん

19 **キラリ☆奈教生**
第18回長江杯国際音楽コンクールで第2位に入賞し学長表彰も受けた
友田麻衣子さん

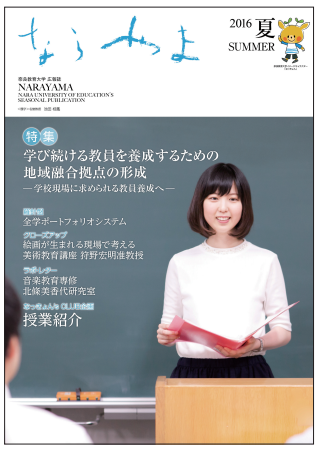
20 **ブカツ魂！**
奈響ネプ

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 **奈教生に聞きました！**
奈教在学中にやりたいこと



表紙のはなし

約束します、教師力。

奈良教育大学は、奈良県における学校教育の指導的役割を担う教員を養成する大学として中心的な役割を果たして来ました。

写真は、学生が教室で模擬授業を行っている様子です。奈良教育大学は、"高い教師力"を持った"学び続ける教員"を養成し、これからも地域のための大学として役割を果たして行きます。

特集

学び続ける教員を養成するための地域融合拠点の形成

―学校現場に求められる教員養成へ―

教育委員会、学校、地域と連携・協働して、奈良県における学校教育の指導的役割を担う教員を養成する大学として中心的役割を果たし、現職教員研修等を協働して実施するため、持続的に教育組織・教員組織の再編などの自己改革を進め、教育分野を中心に地域と融合する大学を目指しています。

第3期の二本の柱(戦略)

1

教育委員会・学校・地域との組織的連携・協働により、教員養成・研修機能を強化する。

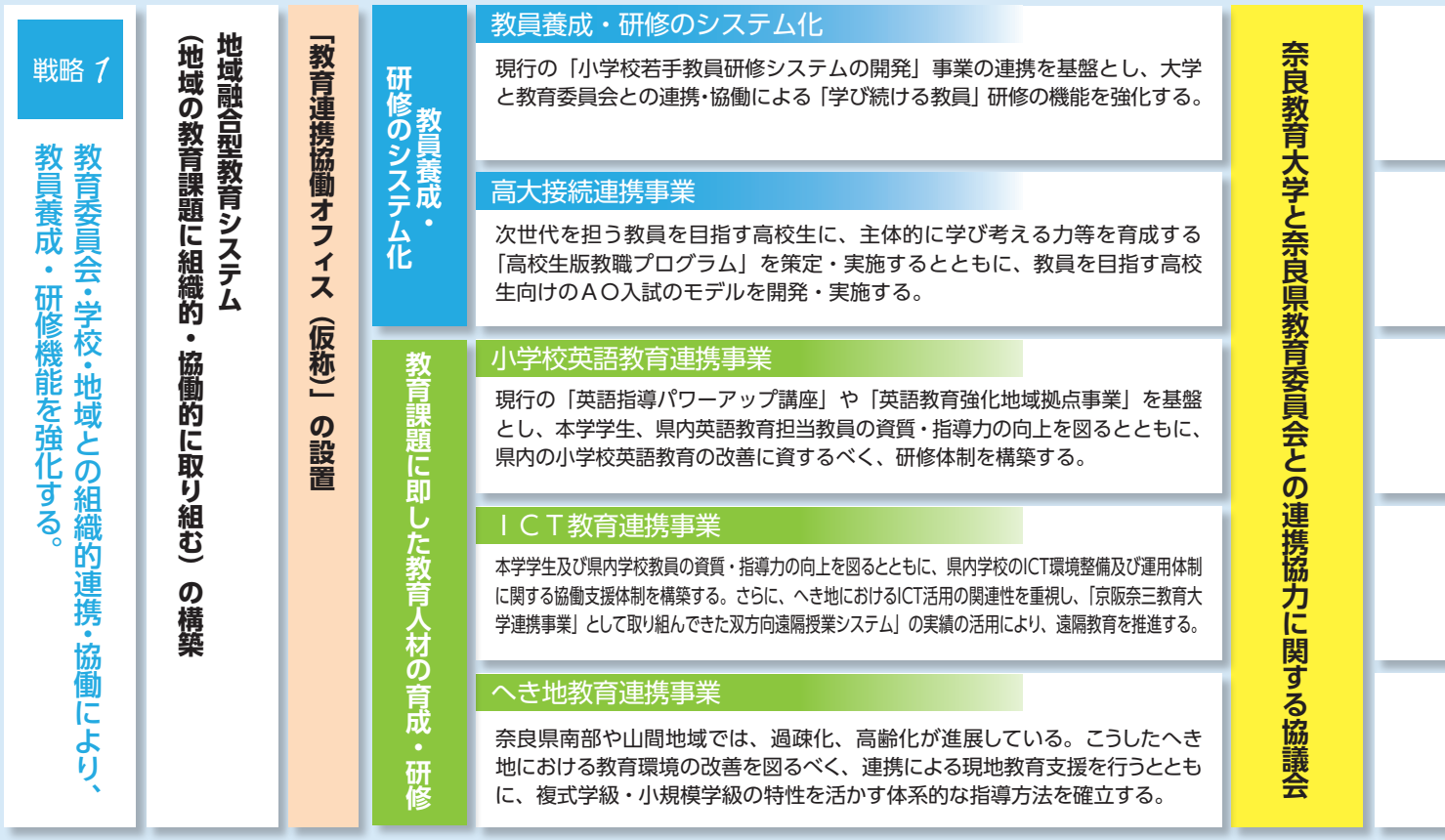
2

現代の教育的課題に対応するプロジェクトを組織し、その研究成果を発信・展開する。

国立大学は平成１６年に法人化し、今年で１３年目を迎えます。６年間を１期として、今年度は第３期のスタートの年となります。奈良教育大学は、この第３期中期目標期間（平成２８年度から平成３３年度の６年間）において、二つの戦略に取り組むことによって、地域の幼稚園、小学校、中学校等の教員養成と教員研修に関して、さらに中心的役割を果たしていきます。また、「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員の養成を目指すユネスコスクールとしての実績を発展させ、持続可能な開発のための教育の推進拠点としてその理念に立った研究と実践を進めていきます。

そのためには、さらに、教育委員会、学校、地域と連携・協働して、奈良県における学校教育の指導的役割を担う教員を養成する大学として中心的役割を果たすとともに、現職教員研修等の協働による実施や、教育組織・教員組織の再編などの自己改革を持続的に進めていきます。

今年度より始まる第３期中期目標期間において奈良教育大学は、戦略１と戦略２の二本の柱のもとに、教育分野を中心に地域と融合する大学を目指していきます。



1 教育委員会・学校・地域との組織的連携・協働により、教員養成・研修機能を強化

教育連携協働オフィスの設置 地域融合型教育システムの構築

奈良県の学校が抱えている課題解決のために大学と奈良県教育委員会等が、今まで以上に連携・協働して課題解決に取り組んでいきます。

新たに、教育委員会、NPO、民間団体等と協働で運営する「教育連携協働オフィス」を設置して（平成28年度）、連携のさらなる強化を図り、大学と地域とで『地域融合型教育システム』を築いていきます。現在、進行中の具体的な取り組みは、次の5つです。

1 教員研修システム連携事業

すでに取り組んでいる「小学校若手教員研修システムの開発連携事業」を基盤とし、例えば、奈良県立教育研究所の研修講座「フレッシュアップ研修」（採用2年目、3年目の研修対象）への参画などを通じて、若手教員育成研修の在り方を奈良県教育委員会と協働して検討を行い、教員研修のさらなる充実を進めます。このため、平成28年度には、奈良県教育委員会との連携の下に、「教員研修専門部会」を設けます。その専門部会を中心に本事業を連携・協働して実施していくため、平成29年度には12名の大学教員が研修に参画し、平成33年度まで1名ずつの増員を計画しています。

また、既に、平成27年3月には、奈良県教育委員会と「職員研修に関する申し合わせ」を締結し、本学大学院に研修派遣された現職教員の2年目の修学・研修について、奈良県教育委員会・教育研究所と一体となって効果的かつ円滑に実施できる体制を構築しています。

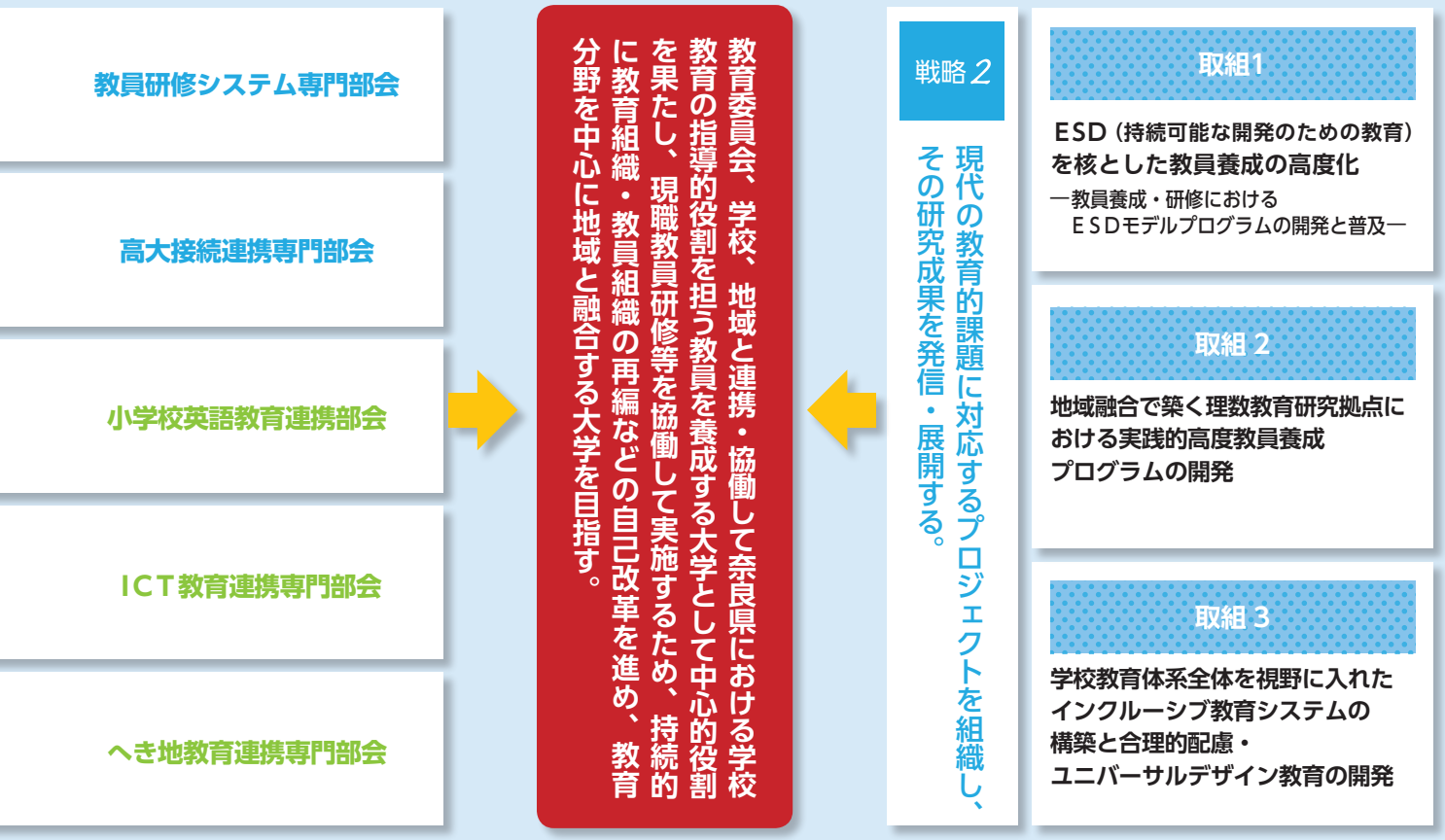
今後、奈良県教育委員会と協議の上、中央教育審議会教員養成部会で検討されている教員研修制度の抜本的な見直しを踏まえ、従来の研修をより実践的・専門的な内容に改め、教員の質の更なる向上を図ることを考えています。

これら一連の取り組みは、学部、初任者研修、若手教員研修、（教職）大学院研修、10年研修という教員養成研修システムの構築に繋がっていくと考えています。

2 高大接続連携事業

次世代を担う教員を目指す県内高校生に、主体的に学び考える力等を育成する『高校生版教職プログラム』を策定・実施するものです。奈良県立高校2校にある「教育コース」の状況を見据えながら、平成30年度の高校2年生からプログラムを開始し、平成31年度には2、3年生に拡充していくことを目指すものです。現在、奈良県教育委員会と部会を設けて調整を図っているところです。

本事業は、中央教育審議会の平成26年12月の答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」や、高大接続システム改革



会議の「最終報告」（平成28年3月）にも対応しており、本学においても第3中期目標期間での実施を目指します。

3 小学校英語教育連携事業

既に、奈良県教育委員会との連携協議会の下に専門部会を設置（平成26年6月）して検討を進めているところですが、現行の「英語指導パワーアップ講座」（平成26年度から）や「英語教育強化地域拠点事業」（平成26年度から）を基盤とし、本学学生・院生及び県内英語教育担当教員の資質・指導力の向上を図るとともに、県内の小学校英語教育の改善に資するものです。

4 ICT教育連携事業

本学学生及び県内学校教員の資質・指導力の向上を図るとともに、県内学校のICT環境整備及び運用体制に関する協働支援体制を構築するものです。

奈良県教育委員会が採択（平成27年度）を受けた、文部科学省の「ICTを活用した教育推進自治体応援事業」（ICTを活用した学びの推進プロジェクト）に連携して取り組み、県内教員のICT活用による一層の指導力の向上を図るとともに、へき地を実証校として活用することによる組織的支援と、質保証を目指した研修の実施や研修プログラムの開発を目指しています。

さらに、へき地におけるICT活用の関連性を重視し、本学が平成24年度より「京阪奈三教育大学連携事業」として取り組んできたICTを活用した事業の一つである「双方向遠隔授業システム」等の実績をふまえ、そのノウハウやリソースを活用し遠隔教育を推進していくことを目指しています。

5 へき地教育連携事業

奈良県南部や山間地域では、過疎化、高齢化が進展しています。こうしたへき地における教育環境の改善を図るべく、連携による現地教育支援を行うとともに、複式学級・小規模学級の特性を活かした体系的な指導方法を確立するものです。

この指導体制は、平成28年度から制度化される「義務教育学校」も視野に、へき地だからこそできる教育の姿を通して、学習指導要領の基本的なねらいである「生きる力」の育成に繋がるものです。

さらに、ICTを活用したへき地への支援については前述の「ICT教育連携事業」で記載のとおり、平成28年度には、奈良県教育委員会との連携協議会のもとに、専門部会を設けることとしています。

なお、これら3つの教育課題に即した教育人材の育成・研修事業においては、課題意識を共有している市町村教育委員会等と協定等の締結（平成33年度までに12市町村と締結）により事業を遂行するなど、新たな教育課題への対応を見据え、継続的な連携体制を築くことを目指しています。

また、この取り組みを更に強固なものとするために平成32年度を目途に大学の教育組織・教員組織の再編（「大学教員研修システムの構築」、「教員組織の一元化」、「専門職学位課程（教職大学院）への重点化」）を行うこととしています。

2 現代の教育的課題に対応するプロジェクトを組織し、その研究成果を発信・展開

次世代教員養成センター(ESD・課題探究部門)の「ESDを核とした教員養成の高度化」「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」、理数教育研究センターの「地域の学校園及び保護者と取り組む新理数科教育システムの開発」、特別支援教育研究センターの「特別支援教育高度実践モデルの開発・推進事業」など、これまでの成果を柱として、さらに新たに生じた現代的教育課題にも対応すべく、研究プロジェクトによる教育実践と人材育成、さらには研究成果の発信を行うこととしています。

SST認証証書授与式

取組 1

ESD(持続可能な開発のための教育)を核とした教員養成の高度化

「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」であるESDの理念は、既に、学習指導要領に取り入れられています。そのことにより、ESDを適切に実践できる能力が教員に求められています。そのような教員を養成すべく、ESDの学びの特質を活かした「教員養成・研修におけるESDプログラム」を開発することとしています。

また、教育プログラム及び研修プログラムの実施(平成27、28年度試行、平成29年度実施)と、習得レベルに応じた認証制度を導入することを目指しています。平成27年度から始まったプログラムには、22名の学生が参加しています。

学ぶ喜び・ESD連続公開講座

取組 2

地域融合で築く理数教育研究拠点における実践的高度教員養成プログラムの開発

本学のこれまでの理数科教員養成のポテンシャルを最大限に活用し、実践的高度理数科教員を養成するため、理工系人材育成の発展に資する理数教育に関する教育プログラム及び研修プログラムを実施していきます。

本理数教育プログラムでは、学内における教科専門性向上のための少人数ゼミナール、学外の学校教育現場における教育実践が密に組み合わされており、規定の条件を満たしたプログラム修了者はSST(スーパーサイエンスティーチャー)として認証されるというSST認証制度が既に施行されています。

そういった実績を踏まえた発展として、また、特に義務教育学校での教育内容の充実という社会的要請に応えるために、初等教育において高い理数科指導力を持った教員の養成へと本教育プログラムはさらに発展を続けています。

小学校でのプログラム参加学生の授業風景

取組 3

学校教育体系全体を視野に入れたインクルーシブ教育(障害のある者とない者が共に学ぶ仕組み)システムの構築と合理的配慮・ユニバーサルデザイン教育の開発

障害者権利条約の批准に基づくインクルーシブ教育の実現にむけて、初等中等教育から高等教育にわたる学校教

育の体系全体を視野に入れて、その実現に必要な教員養成プログラム、合理的配慮・ユニバーサルデザイン教育のモデルを開発し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育推進のための教育プログラム(平成30年度まで試行、平成31年度より実施)及び研修プログラム(平成29年度まで試行、平成33年度に8講座まで拡大し400人受講)をそれぞれ実施することとしています。

これらは地域連携に基づく発達障害・学校支援、専門性向上、インクルーシブ教育モデル事業の相互環流の促進をはかり、わが国の学校体系全体を視野に入れたインクルーシブ教育システムの構築を目的として、学校教育における合理的配慮やユニバーサルデザイン教育の内容を究明し、各学校階梯に即したモデルを構築するものです。

二本の柱のゴール

この二つの柱(戦略)には、6年間の年度ごとの詳細な指標が定められています。指標に基づき計画的な実施を行うことによって、教員養成の機能強化や学生の社会体験の場の充実、教育委員会との連携・協働による教員研修機能の強化や学校課題の解決を着実に果たしていきます。

奈良教育大学は、この二つの柱を中心に、教育学部(学校教育教員養成課程)、大学院修士課程、専門職学位課程(教職大学院)、6つのセンター(次世代教員養成センター、国際交流留学センター、特別支援教育研究センター、理数教育研究センター、自然環境教育センター、保健センター)、3つの附属学校園(幼小中)が一体となって、教育の分野で地域と融合する大学としての基盤を、さらに確かなものとしていきます。

奈良教育大学の第3期における機能強化に向けた取り組み構想が全国立大学法人の中で、最も高い評価を受けました

第3中期目標期間における国立大学法人運営費交付金については、第3期における国立大学が目指す方向性や戦略に応じ、運営費交付金に差をつける重点支援制度が設けられました。本制度は、機能強化の方向性に応じた取り組みをきめ細かく支援するため、予算上、3つの枠組み(重点支援①～③)を設けて重点支援を行うこととされ、各国立大学法人は、それぞれの機能強化の方向性や第3期を通じて特に取り組む内容を踏まえて、いずれかの枠組みを選択することとなっています。

3月9日、文部科学省より、その評価結果が公表され、奈良教育大学は、重点支援①の枠組みを選択し、機能強化に係る運営費交付金の配分に関し、118.6%という、全国立大学法人の中で最も高い評価(9大学)を受けました。

【重点支援①】の枠組みの内容は次のとおりです。

主として、人材育成や地域課題を解決する取り組みなどを通じて地域に貢献する取り組みとともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界ないし全国的な教育研究を推進する取り組み等を第3期の機能強化の中核とする国立大学を重点的に支援する。

【本学の取り組み構想における【戦略】の内容は、次のとおりです。

戦略1　教育委員会・学校・地域との組織的連携・協働により、教員養成・研修機能を強化する。

戦略2　現代の教育的課題に対応するプロジェクトを組織し、その研究成果を発信・展開する。

羅針盤

奈良教育大学の取り組み

全学ポートフォリオシステム

奈良教育大学では、教員を目指す学生の学びをサポートするために、平成27年度より「全学ポートフォリオシステム」を導入しました。

「ポートフォリオ」とは何か、このシステムが目指す学びとはどのようなものなのか、学生はどのように利用しているのか、などについて紹介します。

1 教員を目指す学生にとっての「ポートフォリオ」

本来「ポートフォリオ」という言葉は、自分の持っているものを蓄積させた「紙ばさみ（ファイル）」を意味します。蓄積させるものとして、例えば金融分野では証券などを指し、美術分野では美術作品になりますが、教育分野では学んだことや経験などを指します。米国の教員を目指す学生は、大学での学習や学校現場での実習でどれだけ力をつけたのかについて、一定の基準に基づいた判定を第三者から受けるために、学んだことや経験したことを綴ったものや、実際に授業をしている様子の動画を査定機関に「電子ポートフォリオ」として提出し、その結果を就職活動の中で活用する場合があります。学生たちは、電子ポートフォリオを作成するプロセスでさまざまな気づきを得ることができますし（このようなポートフォリオを「ラーニングポートフォリオ」といいます）、大学側は得られたデータを活用しながら効果的な指導戦略を考えることができるようになっています（このようなポートフォリオを「ティーチングポートフォリオ」といいます）。

我が国でも、必ずしも米国と同じような形で運用しているわけではありませんが、教員を目指す学生の学習や、教員として就業してからの学習の質を高めるために、紙媒体や電子媒体によるポートフォリオを用いた学習のしくみを導入する教員養成系大学等が増えていきました。

2 学習ニーズと学び方の変化によって注目されるようになったポートフォリオ

かつて経済成長とともに近代化していった日本の教育は、本を読んだり訓練して覚えたりすることができる科学的な知見を効率よく効果的に伝授することを目指していたので、そのための方法の研究が活発に行われました。このような教育は、日本の教育水準を急激に高めたという評価を受けた一方で、効率よく（受け身で）吸収する態度をも育ててきたのではないかという指摘を受けることもしばしばありました。

やがて、現代のように近い将来の展望でさえ不明確になるほど激しく変化し続ける時代に入ると、子どもたちが成長し、就業したときの仕事内容も複雑なものになり、高い専門性や判断力を要する職種が増加しました。このような職種は、伝達されたことを再現するだけでは仕事を完了することができませんし、さまざまな場合に対応できる高い判断力が求められますが、そのような能力についてはマニュア

ル化が困難です。バラエティに富んだ職種に必要な（マニュアル化できる）知識も実にさまざまです。

このように人が学んでいく上での課題や必要とする知識も多様化したため、従来であれば効率よく効果的に吸収できたといわれた教育方法を適用しようとするだけでは、学習者の満足を得ることが難しくなりました。そのため、創意工夫しながら新たな方法の開発と適用が求められるようになりました。そのときに、学習者自身が自らの学習ニーズを意識できるようにした上で、さまざまな学習経験から知見を抽出し、各々の学習ニーズの達成状況を確認する手助けとなるものが模索されるようになりました。そこで注目されるようになったのが、ポートフォリオです。

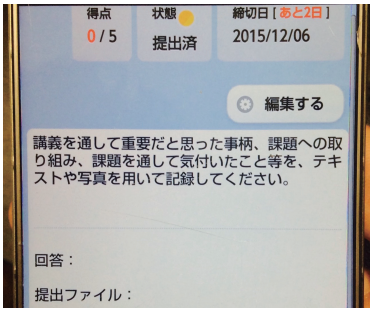
教員の学びも同様です。とくに採用されてから１０年未満の教員にとって頼るべき先輩教員は、ベテランの教員の多くが退職することに伴いさらに多忙を極めるようになり、もともと言語化が困難な熟達化した技術を「働きながら教わる」ことが、ますます難しい状態となりました。そのため、日常の授業などで実践したことと、その結果である実態とを見比べて、自ら図示したり言語化するなどして解釈するといった「働きながら学ぶ」ことによって、継続的に技術を高めることが必要とされるようになりました。

このような社会の変化に伴い、本学を含めたさまざまな教員養成系大学等が、実態から学びながら技術を高め続けることができる学習能力の高い教員を養成するための方法を模索するようになりました。そしてポートフォリオを用いた学びはその手立てのひとつとして、採用されるようになりました。

図示したり言語化して学ぶ学生

3 本学でのポートフォリオを用いた学び方とその支援

そして、本学では「全学ポートフォリオシステム」という電子ポートフォリオシステムを導入することになりました。本システムは学習内容や活動の記録や、課題の提出を通して成果を蓄積するだけでなく、定期的にそれらを整理して「結局何のために何を学んだのか、次に目標とするべきことは何か」を説明するために必要なメニューを備えています。さらに、カリキュラムの枠組みを７つに整理した「cuffet（カフェット）」（「学校教育の課題把握」、「教科・領域に関する基礎的知識と教育実践への具体化」、「情報活用能力」、「授業力」、「児童・生徒理解と教育実践への具体化」、「学校と地域社会との連携」、



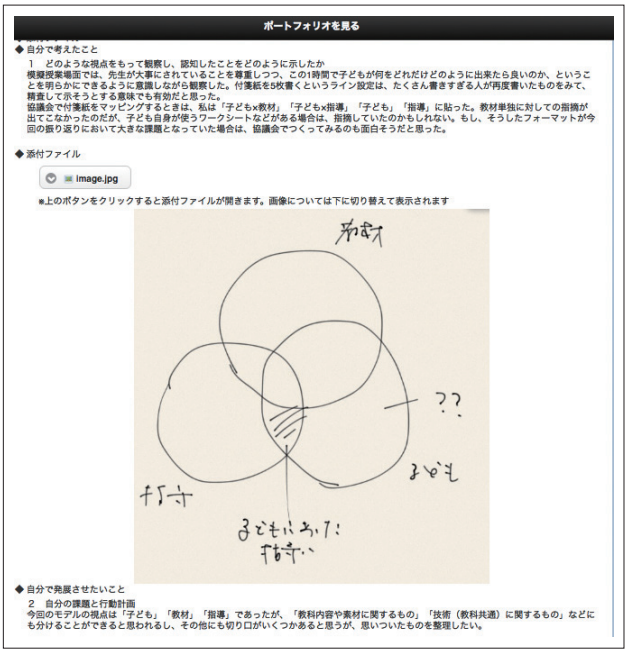
モバイル機器を介した課題提出

全学ポートフォリオシステムのトップページ

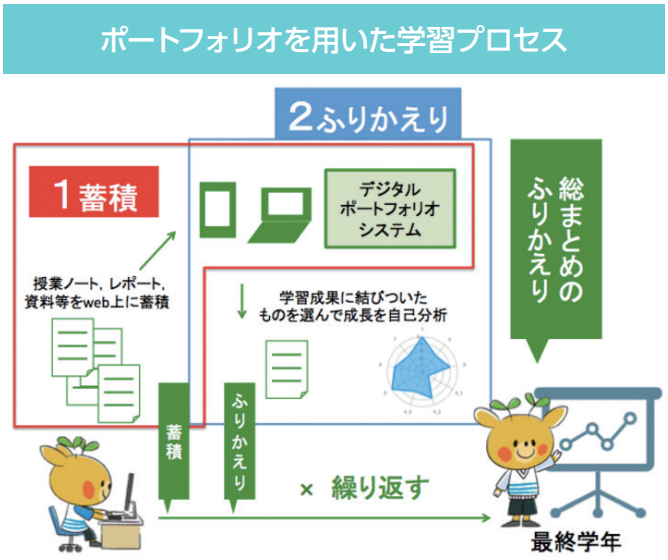
「職能成長」）を自分の変化を語る時の切り口として活用できるようにしています。このシステムに蓄積されたものは、卒業するときに一括でダウンロードできるので、学生時代の成果を卒業後も確認することができます。

すでにいくつかの授業でシステムの利用が始まっていますが、その利用方法はさまざまです。授業中に友だちにスマートフォンのカメラで記録してもらったプレゼンテーションを確認して気づいたことを投稿したり、授業中にメモしたノートの写真をアップロードしておいたりするという使い方もみられます。共同で冊子をつくるための編集作業に利用されることもあります。学内独自のプログラムに参加した際の能力認証のための利用も始まりました。

こうしたさまざまなニーズに基づく利用方法の相談に応じたり、操作面での支援を行うために、本学内にサポートデスクが設けられました。サポートデスクは定期的にメールマガジンで情報発信したり、Web ページでマニュアルを公開したりしています。また、依頼に応じて授業で操作説明をしたり、オムニバス形式の担当教員を対象とした操作説明会を開いたりします。このような活動を通して得られたシステムに対する要望を集めて、開発業者と改修の相談を行うことも、サポートデスクの仕事になります。



ポートフォリオの一例



4 おわりに

学生のみなさんが卒業したあと、さまざまな課題に専門家として向き合うとき、ひとりで悩み苦しまず、やりがいをもって過ごしていけるように、さまざまな取り組みが検討されています。ポートフォリオを用いた学びもそのひとつと言えますが、以上のような取り組みは始まったばかりですので、こうした取り組みによる成果や具体的な変化については慎重に観察を続けていく必要があります。

参　照　「全学ポートフォリオとは？」（本学ホームページ内専用 Web ページ）
http://www.nara-edu.ac.jp/students/portfolio_top.html
「cuffet（カフェット）」
http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/KYOUMU/cuffet_index.html

クローズアップ

本学教員の研究を詳しく紹介

絵画が生まれる現場で考える

美術教育講座 准教授 狩野（かの） 宏明（ひろあき）

何をどのように描くか

私の専門分野は、絵画制作に関わる理論と実践の研究です。私の研究室は、常に制作途中の絵であふれています。日々、自身の作品を制作しながら、絵画が生まれる現場で美術教育について考え続けています。

古来、人間は様々な主題と形式の絵画を生み出してきました。現代においては絵を描く際に、何をどのような手法で表すかについて、制作者は自由に考え決定することができます。これはとても幸福なことであると言えますが、自分はいったい何に問題意識を持ち、何を伝えたいのか、そしてそれを伝えるためにはどのような方法が有効であるのかを深く考察する必要があります。このような絵画制作の過程は、個人の制作者のみに関わる問題ではなく、教育の現場において課題を自ら見出し探究し続ける力に結びつくものであると考えます。

制作風景

世界を観察する力

私は、身の回りに存在するものや風景を注意深く観察するという行為が、絵の主題を決定する上で重要な役割を果たすと考えています。なぜなら、私たちを取り巻く環境にあふれる様々なものや風景にあらためて注目してみると、それらの中に、人が作り上げてきた制度や歴史、さらには物語や神話などにも結びつく世界の構造が内在していることに気付かされることがあり、それらが絵画の主題を見出すための鍵となると思われるからです。

自身が暮らしている土地をよく観察することや新しい土地を旅行する経験は、その土地ではありふれているけれど他の土地では見られない特有のものや風景を発見することを可能にします。またそれらの発見は、特に美的価値を持ったものとして注目されることが少ないものや風景に対しても、それまで気付かなかった魅力を感じることにもつながります。

作品紹介 ≪記憶のジオラマ≫

次ページの写真は、私が制作した油絵の画像です。タイトルは≪記憶のジオラマ≫と言い、サイズは182.0×520.0㎝で2015年に制作しました。この絵は、具体的に目に見えるものを描いた、いわゆる具象的な絵画ですが、現実の世界とはどこか違った奇妙な風景です。この光景は、私が現実世界で実際に目にした様々なものや風景を組み

狩野 宏明 ≪記憶のジオラマ≫ 油彩、綿布、パネル、182.0×520.0㎝、2015年

合わせることで生み出されました。

この作品を制作するにあたり、私はアメリカのワシントン DC にある国立航空宇宙博物館に展示されている火星探査機や宇宙船の部品などを取材しました。これらのモチーフは、人間が未開の地を調査し、世界の不思議をより深く理解しようと努めてきた歴史を象徴するものです。

またこの絵の中で、これらの機械の周りには奈良の地で取材した風景が広がっています。古代の遺跡が多く残された飛鳥の風景や、平城京の再現模型、生駒の山上遊園地そして奈良教育大学の構内などをもとに、巨大なジオラマのような光景を描きました。

宇宙探査機や奈良の風景が混在する≪記憶のジオラマ≫は、奈良をはじめとして世界を観察しながら絵を描いている自分自身の制作活動そのものを視覚化することを試みた作品です。

作品制作の現場で学ぶ

奈良教育大学の絵画研究室（狩野研究室）では、学生一人一人が個人で研究や作品制作を行うだけでなく、附属学校園や地域と連携したワークショップやアートプロジェクトを通して、美術教育に関わる総合的な実践を学んでいます。2015 年には近鉄奈良線「学園前駅」地域において、新たなアートプロジェクト「学園前アートウィーク 2015」が開催され、本学絵画研究室ゼミ生は、帝塚山大学、東北芸術工科大学と協力して作品の共同制作を行いました。そして狩野作品と三瀬夏之介氏（画家／東北芸術工科大学教授）の作品とともに大和文華館文華ホールで作品を展示しました。

学生たちは地域、大学、アーティストと連携しながら、学園前地域のフィールドワークをもとにした作品の構想、制作、展示を共同で行いました。この活動を通して、ある地域についてのフィールドワークは、その土地への興味、関心を生み、特有性の理解へとつながると同時に、別の地域について考察する際にも応用可能な広い視野と想像力の獲得にも結び付くことが感じられました。また他領域の学生同士の交流やアーティストとの連携は、多様な専門的知識・技能や価値観を学び合い、次世代教員として必要な柔軟な思考力を身につけることにつながったと考えられます。

世界観を更新し続ける

絵画を含め美術作品は、個人的な感情や想いだけでなく、それらを形成する要因となる社会や歴史、

宗教、民族、自然科学など、あらゆる分野との関わりから生まれてくるものであると言えます。それゆえ美術の大きな魅力の一つは、自身の興味や価値観を常に拡張させ、領域横断的に学び続けることができる点にあります。今後も自身の世界観を常に更新し、新しい絵を生み出しながら、美術の魅力を伝えていきたいと考えています。

「学園前アートウィーク2015」 大和文華館文華ホール展示風景

プロフィール

美術教育講座

准教授 狩野（かの） 宏明（ひろあき）

専門は絵画。

筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程芸術専攻修了（2010）博士（芸術学）。

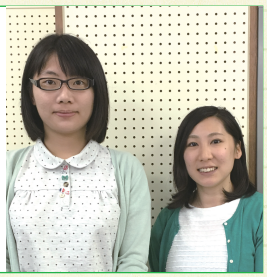
筑波大学非常勤講師、奈良教育大学特任准教授を経て、2014年より現職。

ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程 教科教育専攻
音楽教育専修

北條（ほうじょう） 美香代（みかよ）研究室



From

教育学部　学校教育教員養成課程
教科教育専攻　音楽教育専修4回生

(左) **月野（つきの） 真世（まよ）さん**
大阪府立寝屋川高等学校出身

大学院　教育学研究科
教科教育専攻　音楽教育専修2回生

(右) **和田（わだ） 亜実（あみ）さん**
京都府立南陽高等学校出身

北條研究室の紹介

私たちが所属する音楽科には、ピアノ、声楽、音楽教育、音楽学、作曲の5つの研究室があります。2回生前期からどの研究室で学びたいか考え始め、2回生後期に所属する研究室が決まります。

北條研究室はその中の作曲の研究室です。この研究室では、主に楽曲分析をしたり、創作技法について考察をしたりし、明らかになったことを自身の創作や編曲に生かしていく、という形で研究を進めていきます。また、「児童の声のための合唱編曲法」など、学校教育現場で生かせる作曲・編曲についても学ぶことができます。

週に1回行われる北條研究室のゼミでは、自身の研究に関わる先行研究を読んでわかったことを発表したり、楽曲分析をしてわかったことを発表したりします。論文執筆の時期には、それぞれの進み具合を報告します。そして先生や他の学生の意見を聞いたり、話し合ったりしながらよりよい研究になるように進めていきます。

北條研究室のゼミには3回生から参加しますが、そのためかゼミ生同士の仲がとても良く、先輩・後輩関係なく意見を言い合える雰囲気があります。論文執筆の時期にはお互いにわからないことを教え合ったり、アドバイスをし合ったりし、助け合いながら北條研究室一丸となって頑張っています。研究室の先生である北條美香代先生は、とても熱心に、そして的確に指導してくださります。論文執筆の時期には研究のことだけではなく、体調面や精神面でもサポートしてくださります。まさに私たちゼミ生にとって「お母さん」的な存在の先生です。

研究室、音楽科の特徴

北條研究室では、週に1回北條先生による個人レッスンがあります。レッスンでは作曲あるいは編曲に取り組み、先生からの指導を受けることができます。そして レッスンを通じて完成した曲は、半年に1回行われる音楽科の演奏会で発表します。

作品は独奏や合唱曲、アンサンブルの曲など様々です。またジャンルも、クラシックからジャズまで様々です。このように自分が興味をもった分野に合わせて、様々なジャンル、形態、編成の作品を発表することができるというところがこの研究室の1番特徴であり魅力です。また、アンサンブルなど大編成の曲を作って発表する場合は、同じ音楽科の友人や後輩に出演を依頼することがあります。作品発表に向けて練習に取り組む中で、同学年だけでなく他学年とも交流し、仲良くなれるのがこの研究室の特徴の1つです。

演奏会は前期に1回、後期に1回あり、3回生から院2回生までが出演します。音楽科にとってとても大切な行事のひとつとなっています。1・2回生のうちは案内状の作成や受付、PA（音響・照明）など、演奏会のお手伝いを通して上回生の演奏を聴くだけでなく、演奏会が行われるまでのプロセスを知る勉強にもなります。

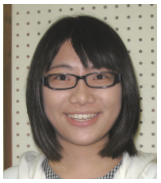
このように、他学年の人とも交流できる機会が多くあることも、研究室及び音楽科の魅力です。

卒業論文テーマとその要旨

小曽根真『We're All Alone』の楽曲分析と考察

Student's Voice

ジャズ独特のコードの響きやリズムが好きで、さらに理解を深め、研究していきたいと思うようになりました。卒業論文ではジャズピアニスト・小曽根真さんの楽曲を分析・考察し、自身の作品にも生かしたいと考えています。



教育学部 学校教育教員養成課程　教科教育専攻
音楽教育専修 4回生
月野（つきの） 真世（まよ）さん
大阪府立寝屋川高等学校出身

プーランク『フルートソナタ』の作曲技法についての考察

Student's Voice

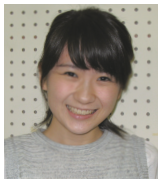
プーランクは、評論家のクロード・ロスタンが「ガキ大将と聖職者が同居している」と評したように、その音楽性に二面性を持つ作曲家です。素直でないプーランクは自分と少し似ている部分があると感じ、とても興味を惹かれました。プーランクについて理解し作曲技法を学ぶことで、自分にとって初挑戦の「作曲」という新しい道を切り開くきっかけにしたいと考えています。

教育学部 学校教育教員養成課程　教科教育専攻
音楽教育専修 4回生
藤（ふじ） 侑花（ゆうか）さん
京都府立南陽高等学校出身

テリー・ライリー作曲「In C」の分析と考察

Student's Voice

私は、現代音楽の「短い旋律およびリズム・パターンの執拗な反復、停滞する和声、それらから結果的に生じる音響表現の漸次的変化」を特徴とする音楽ミニマル・ミュージックである、テリー・ライリー作曲『In C』について研究しています。私は、『In C』について分析・考察することを通し、自身の作品を深めると共に、「音楽の本質」に深く迫りたいと考えています。また、『In C』は、周囲の音の変化を聞きながら即興的に演奏されるため、音楽の中に奏者同士の非言語コミュニケーションが介在します。そのことにも着目し研究を進め、将来は教育現場でも活用したいと考えています。



教育学部 学校教育教員養成課程　教科教育専攻
音楽教育専修 4回生
木村（きむら） 秀代（ひでよ）さん
奈良県立郡山高等学校出身

ひと・あれ・これ
―活躍する卒業生を紹介―

「仲間と学び続けること」

奈良市立済美南小学校
教諭
6年2組担任
なかむら ゆうや
中村 友弥さん
（教育学部 学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 障害児教育
履修分野　平成21年3月卒業）

私は、奈良市立済美南小学校に勤めています。本校は、全校児童約200名。ICT モデル実践校、韓国慶州市金丈小学校との交流等、様々な教育活動に熱心に取り組んでいます。

私には、教員として大切にしていることが2つあります。1つ目は、学び続けるということです。社会は急速に変化しており、子どもたちの学びも急速に変化し続けています。その変化に対応するためには、自分自身が学び続けなければなりません。ですが、学び続けることは意外と難しいのです。授業の準備や生活指導など、日々の仕事を終え、そこからさらに学ぶための時間と機会を自ら求める必要があるからです。休日や夜遅くまで学ぶことも多々あります。めげそうな時もあります。そこで 学び続けるためのエネルギー補給を欠かしません。車が走り続けるための給油ですね。私にはそのエネルギーをくれる人たちがたくさんいます。その1つが奈良教育大学の仲間です。同じコースで共に学んだ仲間、準硬式野球部で共に汗を流した仲間です。大学を卒業した後も、同じ教員の道を歩き、切磋琢磨しています。それぞれ専門にしている教科や教員として学んでいる方向は違っても、同じ志を持つステキな仲間たちです。学生の時から教員という目標に向かっていっしょに頑張ることができる仲間ができたのは、教育大学ならではの環境、そして、出会いがあったからこそだと思います。

2つ目は「仲間」です。「仲間」は、私の授業づくりの基盤になっています。小学校の授業ですから、「仲間」はクラスの友達のことを意味します。もう一度述べますが、社会は急速に変化しています。社会の変化に応じて、子どもそれぞれの授業に対するニーズも多種多様。自分の実力不足もありますが、私1人でクラスの子ども全てのニーズに応えることはできません。それでも授業は毎日やってきます。そこで力を借りるのが「仲間」クラスの友達です。例えば、算数で問題練習を解くとき、得意な友達が苦手な友達に教えるといったことです。よくある指導ですが、このような指導を学校生活の様々な場面で積み重ねていき、信頼関係が強い仲間集団を構築します。仲間集団を大切にする力は、子どもたちの将来で必ず役に立つと信じています。

子どもたちは、想像以上に大人の様子を見ています。私自身が学び続けなければ、仲間を大切にしなければ、きっとクラスの子どもたちも学ぼうとしないし、仲間を大切にしないでしょう。これからも教員として成長し続けるために、努力していきたいと思います。

準硬式野球部時代

After graduation

授業風景

小学校で指導中のタグラグビー

奈教のひみつ

学生広報スタッフ“なっきょん’s CLUB”企画

地域に根差したグローバル教員の育成
—博物館を活用した国際理解教育—

渋谷 真樹　（学校教育講座・教授）

本学は、地域に根差しつつ、グローバルな視点をもった教員を育てています。
今回は、学校の内外にある多文化への理解をうながす「校外学習指導特講」の授業の様子を紹介します。

授業の流れ

STEP1（第1~3回）

異文化と出合う

国立民族学博物館から取り寄せたアウトリーチ教材「みんぱっく」を用いて、小学2年生の国語で学ぶモンゴル民話「スーホの白い馬」の世界を体験します。また、モンゴル人留学生をゲスト・ティーチャーに迎え、モンゴルについて学びます。

博物館から届いたスーツケースにはモンゴルの衣装やおもちゃがたくさん！

モンゴル人の留学生とともに

受講生の声

文章や言葉から頭で理解するものとは違った種類の深い理解を得られるものが体験による学習なのだと考えた。

見て、触れて、感じて、児童自らそれに働きかけたい、もっと知りたいと思わせるところまでが、教師のすべき出会いのサポートだと思う。

STEP2（第4~6回）

テキストを読み、議論する

『学校と博物館でつくる国際理解教育』（中牧弘允他編著、明石書店、2009年）をテキストに、理論や実践について理解を深めます。

STEP3（第7~8回）

ゲスト・ティーチャーによる特別講話

異文化は、学校の外にあるだけではなく、教室の中にもあります。外国からの転校生や国際結婚家庭の子どもたち、在日コリアンの子どもたちなど、教室はまさに多文化！ ご自身が子どもの時に来日した日本語指導員や、ながく国際理解教育にたずさわってきた先生などをお招きして、生のお話をうかがいます。

受講生の声

在日外国人の子どもたちは、伝えたいことがたくさんある。それを表現する場を与えてあげることが大切なのだと感じた。

無関心が一番怖い。関心があれば、無知を知り、改善することができる。子ども一人一人の課題に気付き、関心をもち、解決するために働きかける教師が求められているのではないか。

どんな授業?

「校外学習指導特講」は、教育学専修の2回生以上を対象にした専門科目です。社会教育主事資格取得のための科目でもあるので、他専修の学生も履修しています。学校教育は、教室の中だけで行われるのではありません。むしろ、遠足や修学旅行などの校外学習が強いインパクトをもつことが多くあります。この科目では、学校外で行う教育活動の意義や内容について学び、国際理解教育や多文化共生教育をテーマに、博物館を活用した校外学習を構想していきます。本学は、日本で最初にユネスコスクールに加盟した大学ですが、この科目は、ユネスコスクール推奨授業科目のひとつでもあります。毎年、留学生を含めて15人程度の学生が履修しています。

STEP4(第9~11回)

子どもに出会うフィールドワーク

奈良県外国人教育研究会が主催する「なら子ども国際フォーラム」に参加して、外国にルーツをもつ子どもたちと出会い、触れ合う機会をもちます。自己紹介や世界の遊び、お国料理での立食パーティーなどを通して、子どもたちの姿や願いを学びます。

受講生の声

やっぱり教師はすごい。たとえ言葉が伝わらなくても、児童を笑顔にするコメント、興味をひかせるゲームを行って交流しており、私ももっとこのような現場で学んでいきたい。

言葉だけではなく体のふれあいや表現でも十分通じ合えることが実感できた。

STEP6(第15回)

ふりかえりとまとめ

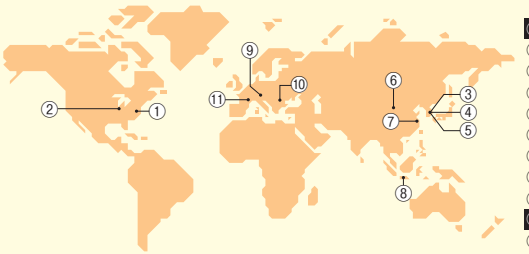
これまでの授業をふりかえりながら、多文化共生力を育てるにはどうしたらよいか、教師をめざす自分たちのグローバルな視野を広げるには何が必要か、全員でまとめていきます。

STEP5(第12~14回)

博物館への遠足

いよいよ国立民族学博物館での遠足を企画・実行します。各自で考えた遠足の目的や目標、授業の展開などを持ち寄って、グループで話し合います。そして、実際に全員で博物館に出向き、子どもの体験を深める工夫や、子どもを引率する際の注意などについて考えていきます。

留学生レポート



Interviewee

教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 英語教育専修 4回生
大阪府立住吉高等学校 国際文化科出身

富山（とみやま） 俊佑（しゅんすけ） さん

ロックヘイブン大学（アメリカ）
（留学期間　2015.8 ～ 2016.5）

留学生男子で声楽クラスのコンサートに行きました。

友人の誕生日会

留学をしようと思ったきっかけは。

大学の講義などで文化について扱うことが多くあり、１度世界に出て自分の文化を外から見てみたいと思ったからです。

留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

英語教育専修なので大学の講義を中心に勉強していました。特に課題で提出する英作文に力を入れていました。

留学先ではどのような１日を過ごしていますか。

平日は朝から夕方まで授業を受け、その後は図書館で課題をしたり大学のジムで汗を流したりしていました。休日も課題が中心でしたが、友達と昼はスポーツしたり、夜はパーティーに参加したりしていました。

留学生活で一番驚いたことは何ですか。（文化面でも、生活面でも構いません）

各行事のスケールの違いに驚きました。感謝祭という祝日やクリスマスにはホストファミリーの家に招待されたのですが、内装・外装共に装飾され、家族友人みんな大勢集まって、わいわいしていました。

留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

嬉しかったことは、友達に日本の話をして、日本に行ってみたいと言ってもらえたことです。大変だったことはルームメイトや同じフロアに住んでいる方たちが夜中まで騒いでいることが多く、なかなか寝付けなかったことです。

留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

アメリカは多民族国家であることもあり、友人と話をする上で日本を外から様々な観点から見ることができました。そして日本の文化を再確認することができました。将来教壇に立ったときに、客観的に見た日本というものを異文化理解という点で生徒に伝えたいです。

在学生、高校生の皆さんに一言

異文化交流は価値観や言語の違いで大変なことも多いです。しかし、それを乗り越える過程で貴重な経験や、新しい感性が得られると思います。ぜひ積極的に異文化体験をしてみてください。

留学生のお別れ会

ロックヘイブン大学（アメリカ）

1986年7月交流協定締結
ペンシルベニア州にある小規模公立大学です。教育者育成に関して有名で、少人数制で教職員と学生との距離が近く、質の高い教育が提供されています。また、世界各国からの留学生が多く学んでいます。

ブカレスト大学（ルーマニア）

1999年3月交流協定締結　ルーマニアの首都ブカレストにある大規模大学で、ルーマニアで最も権威のある大学の一つです。1694年に設立された王立学院の伝統を引継ぎ、1864年に設立されました。キャンパスはなく、ブカレスト中にさまざまな施設が設けられています。特に大学本部はブカレストの中心にあり、ブカレスト国立劇場や国立歴史博物館に近く、周辺にはカフェや古本屋などがたくさん立ち並んでいます。

キラキラ座での楽しい時間

Interviewee

ブカレスト大学（ルーマニア）

CILIBIU SORINA（チリビウ ソリナ）さん

日本 / 奈良教育大学
（留学期間　2015.9 ～ 2016.8）

友達と角きりを見に行った時

留学しようと思ったきっかけは。

子供の頃からアニメや漫画に興味を持っていました。高校生になったとき、自分で挑戦してみたかったのでインターネットでちょっと日本語を勉強しようと思って、最初は一人で頑張りました。でも、母のアドバイスで日本語センターに通いはじめ、大学でも日本語の勉強を続けることにしました。そうしたら、知らないうちに日本で留学することは夢になりました。

留学する前にどのぐらい日本語を勉強していましたか。

日本に来る前に4年間ぐらい日本語を勉強していました。最初は日本語センターで、そしてブカレスト大学で勉強を続けました。

奈良教育大学の学生としてどのように過ごしていますか。

私は外国語だけではなく、演技にも関心を持っているので高校のときに演劇部で活動していて、ブカレスト大学では日本語での演劇に挑戦しました。そして今、奈良教育大学の演劇部（キラキラ座）に入って、日本の演技法を習っています。友達にも恵まれて非常に楽しい日々を過ごしています。

留学生活で一番驚いたことは何ですか

それはたまにあります。来日する前に、日本文化や日本のことを真剣に勉強したので、ビックリする時は少ないですが、お年寄りが車の運転をしたり、スクーターに乗ったりするのを見かけることが多いのにビックリします。それはルーマニアにはあまりないので、最初はちょっと驚きました。

留学中一番嬉しかったことは何ですか。

これは難しい質問です。嬉しかったことはたくさんありますから。たぶん、旅行がいっぱいできたり、大好きなバンド（ONE OK ROCK）のライブに行ったり、日本人や他の留学生の友達ができたり、そして一緒にたくさん遊んだりする瞬間は一番幸せでした。それに、日本の美しい景色に癒されることも多かったです。日本でいろいろな素晴らしい体験が出来て、美味しい御飯も食べて、心から感謝しております。日本が大好き！だから、日本で過ごした時間はすべてかけがえのない思い出になる気がします。

留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか?

まず、帰国して大学を卒業してから、日本で働いてみたいので、ここに戻ってきたいと思います。これからも、この夢に向かって、必死に頑張るつもりです。

日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

「夢を持て。そして、その夢を叶えて。」一生懸命頑張れば、何でも出来る。留学したいとか、先生になりたいとかどんな夢でも、一番大切なのは簡単に諦めないということです。ニーチェ（ドイツの哲学者）もこう言っています。「よく生きるために、自分を侮蔑しないために、理想や夢を決して捨ててはならない」

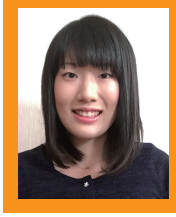
初めて振袖を着た時

キャンパスで輝く学生を紹介

キラリ奈教生

大学院同回生のメンバー

Profile
プロフィール



大学院教育学研究科
教科教育専攻
音楽教育専修 2回生

友田（ともだ） 麻衣子（まいこ）さん
兵庫県立加古川東高等学校
出身

加古川市新人演奏会での演奏

第18回長江杯国際音楽コンクールの
披露演奏会での集合写真

第18回長江杯国際音楽コンクールで第2位に入賞し学長表彰も受けた友田麻衣子さん

第18回長江杯国際音楽コンクールは、全国から応募した378組が、ピアノ、声楽、弦楽器、アンサンブル等の部門ごとに予選審査を受けて、予選を通過した239組で本選が行われました。

今回はピアノ部門で予選に通過し本選で第2位に入賞、その功績で学長表彰も受けた、友田麻衣子さんにお話を伺いました。

ピアノを始めたきっかけは？

4歳の時、母の勧めで、ヤマハ音楽教室の幼児科に入会したのがきっかけです。2年後、グループレッスンと個人レッスンの両方あるコースに進んで、ピアノやアンサンブル、聴音、バリエーション、作曲などを習いました。小学生の私には難しかったですが、おかげで音楽が得意になりました。中学以降はピアノの個人レッスンだけを続けました。大学では、またピアノを頑張りたいと思い、奈良教育大学音楽教育専修に入学しました。1回生の頃は授業数が多く、私は通学に時間がかかるので、練習時間がなかなか取れなかったのですが、その分、限られた時間の中で何をするべきかを考えながら、毎日取り組むようにしていました。また、音楽教育専修では、ピアノの試験や学内の演奏会など、人前で演奏する機会がたくさんあるので、日々目標を持って努力し続けることができました。私がこれまで頑張ってこられたのは、研究室の先生をはじめ、音楽教育専修の先生方、そして家族の支えがあったからだと感謝しています。

当日の様子を教えてください。

長江杯国際音楽コンクールには、音楽大学の大学院生や、ピアノ教室の先生など音楽専門のお仕事をされている方、中国人の方もいました。演奏順が一番だったのでとても緊張しましたが、落ち着いて、楽曲の良さが伝えられるように演奏しようと心に決めました。ホールに入ってみると、審査員との距離が近かったので、音量に気をつけながら演奏しました。コンクールを受ける時に私がいつも心がけることは、悔いの残らない演奏をするということです。結果よりも、自分の力を本番で出し切ることが大事だと思っています。また、コンクールに向けて一生懸命に練習することで自分自身が成長できるので、コンクールに出ることはとても良い経験になります。残念ながら1位にはなれませんでしたが、本番の演奏に悔いはなかったので、2位という結果でも満足しています。

どんな先生になりたいですか？

小学校と中学校音楽の教育実習を経て、私はやはり生涯を通して、大好きな音楽に携わっていきたい、中学校の音楽の先生になりたいと思いました。そして、4回生の時に無事教員採用試験に合格することができました。未熟ながら、来年の春から教壇に立つことになります。私は、子どもたち一人ひとりの心に寄り添える先生になりたいと思っています。そして、授業を工夫して、音楽の楽しさを子どもたちに感じ取ってもらい、音楽が好きな子どもたちを育てていけるように頑張っていきたいです。

課外活動紹介

ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属11団体、体育会所属26団体のクラブがあり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。
今回は、奈響ネプです。

文化会
- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会) すぎのこ
- 書芸部
- 地歌箏曲部
- 現代視聴覚文化研究会
- 奈響ネプ(アカペラ部)

体育会
- 合氣道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

[学生団体・クラブ紹介] http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/

pick up

奈響ネプ 総部員数51名

奈響ネプは4回生14人、3回生8人、2回生19人、1回生10人で構成されています。主な活動内容としては、4月に行われるSpring LIVE、11月上旬の学祭ステージ、1月下旬の新人LIVE、3月の卒業LIVEなどが挙げられます。今年度は7月13日(水)に学内LIVE、11月27日(日)にサークルLIVEを予定しております。

洋楽バンド「Earth&Ecology」

J-popバンド「ふれみん」

心を合わせて、心に残るハーモニーを。

教育学部 学校教育教員養成課程
理科教育専修 中等教育履修分野 3回生
奈良県立畝傍高等学校出身
奈響ネプ 部長
宮内(みやうち) 香澄(かすみ) さん

こんにちは！私たち奈響ネプは、アカペラを練習しながら、総勢51人で活動しています。ところで、「アカペラ」とは何かご存じでしょうか？「アカペラ」とは、ピアノやギターなどの楽器を使用せずに、人の声だけでハーモニーを奏でるという演奏のことです。合唱とは、マイクを使用するという点が異なっており、声でパーカッション効果を出す(ボイスパーカッション)ことも大きな特徴の一つです。

中・高校でアカペラ活動をしている場所は限られており、そのためほとんどの部員がアカペラ初心者で入部しています。時には先輩に教わったり、他大学の活動も参考にしながら、日々練習に励んでいます。

私たちは5～6人でバンドを組んで活動しています。現在12バンドが活動中で、聴いていて楽しくなるJ-popやおしゃれな洋楽、懐メロやアニメソングなど、それぞれのバンドで特色ある曲を練習しています。バンドのメンバーで歌いたい曲を決めるため、自分のお気に入りの曲をアカペラで奏でることができます。

部活全体の活動としては、学内で行うLIVE(新入生歓迎LIVE、Summer LIVE、学祭ステージ、新人LIVEなど)のほかに、外部団体からの依頼や他大学との交流LIVEなど、おもにLIVE活動を精力的に行っています。

アカペラはバンドメンバー一人一人の歌うパートが異なるため、全員が揃うことで初めて、美しい曲を演奏することができます。全員の心を一つにすることで、聴く人の心に残るハーモニーが完成するのです。簡単なことではありませんが、一致団結した演奏ができた時には思わずガッツポーズをしてしまうような、感動と達成感を得ることができます。これがアカペラの良さだと私は考えています。

これからも部員一同、心を一つに、より一層積極的に活動いたしますので、ご声援よろしくお願いいたします。

奈響ネプ部員全員、楽しく活動しています

活躍する奈教生

文化系

茶道部
藤田(ふじた) 明希(あかね)さん(社会科教育専修4回生)
✦「茶道　裏千家　中級取得」

体育系

少林寺拳法部
堀田(ほった) 健士朗(けんしろう)さん(技術教育専修3回生)
✦ 奈良県少林寺拳法連盟主催、奈良市少林寺拳法大会
単独演武一般三段以上の部で優勝

男子バレーボール部
✦ 関西　大学バレーボール連盟　春季リーグ
5部リーグ全勝優勝、秋季リーグより4部へ昇格

陸上競技部
荒木(あらき) 希実(のぞみ)さん(大学院 教職開発専攻 1回生)
✦ 天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会に女子100m種目にて出場決定。
第93回関西学生陸上競技対校選手権大会　女子100m 7位

1月18日

山添村と連携協力に関する協定を締結しました

奈良教育大学と山添村は、相互に連携協力することにより、山添村の教員の資質向上及び本学における教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応し、双方における教育や研究の充実・発展並びに村の地域づくりの充実・発展に資することを目的に協力協定を締結しました。

奈良教育大学で行われた協定調印式には、加藤久雄学長と山添村の窪田政倫村長が出席し、協定書に署名を行いました。

これまでも、本学学生による「山添村物産品フェア」の開催や、伊藤剛和教授と古田壮宏准教授によるICT（情報通信技術）を活用した教育を推進するための研修の実施等を通じて交流・連携されてきましたが、今回の協定締結により、より一層の連携協力が期待されます。

1月28日

春川教育大学（韓国）視察団が来学しました

韓国の春川教育大学大学院視察団（大学院長、大学院生19名、引率職員2名、通訳1名）が、自らの初等教育能力を向上させること、日本の教育と文化の現場を直接見て感じることによりグローバルマインドを培うことを目的に本学を訪れました。

加藤久雄学長より歓迎の挨拶の後、本学の概要や古都・奈良にある教員養成大学としての取り組み等の説明が行われ、附属小学校で行われた理科の授業見学では、理科室での模型を用いた授業風景に大変興味を持った様子で、日本の授業形式やカリキュラムや担任制の仕組みを質問する等、熱心な様子が伺えました。

学内の施設見学では、幼稚園教諭を目指す学生の読み聞かせ練習の場である「えほんのひろば」が、地域住民にも開放されていることを聞いた参加者は大変驚いた様子で、韓国でも地域と密着した取り組みを行って欲しい等の感想が聞かれました。

最後に、春川教育大学のJang Byung Ghi大学院長が「今回の訪問は大変参考になった。韓国での今後の業務に生かしていきたい。」と感謝の言葉を述べられ、加藤学長と固い握手を交わし、両大学間の深い友好が確認されました。

3月3日

「第3回京阪奈三教育大学連携推進フォーラム」を開催しました

京阪奈三教育大学連携推進協議会主催「第3回京阪奈三教育大学連携推進フォーラム『「学び続ける教員」のための教員養成・研修高度化事業―京阪奈三教育大学連携による教員養成イノベーションの創生―』」が開催されました。

加藤久雄学長の挨拶に続き、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課の吉田光成企画官から「国立大学改革における大学間連携の状況について」と題して基調講演が行われました。続いて、京阪奈三教育大学のそれぞれがもつ強み・特色・社会的役割を活かした6つのプロジェクトについて、連携することの意義、平成27年度の成果及び本事業の最終目標の3点に焦点化して、各大学の担当者から説明が行われました。

後半は、加藤学長、吉田企画官、位藤紀美子 京都教育大学学長、栗林澄夫 大阪教育大学学長、吉田育弘 奈良県教育委員会教育長、中室雄俊 奈良市教育委員会教育長による「平成27年度の成果と今後の展望について」と題したパネルディスカッションが行われ、とりわけ奈良県・奈良市の各教育委員会からは、本事業による成果に期待するとの声が寄せられました。

会場内の参加者からも質問や各大学の取り組みの紹介などが行われ、活発なフォーラムとなり、盛会のうちに終了しました。

3月10日

平成27年度学生表彰式を開催しました

学生表彰式は、学術、課外活動及び社会活動等において優秀な成績を修めた学生や団体を表彰するもので、今年度は6名の学生が学長表彰を、11名の学生と1団体が学生委員会委員長表彰を授与されました。

加藤学長から「自分自身の努力はもちろん、様々な方の支えがあったからこその功績です。この機会にお世話になっている人に感謝の気持ちを伝えてほしい。将来の教育界を支えていく存在となることを期待するとともに、今後のご活躍を願っています。」と祝辞が述べられました。

その後、全員を代表して、国際的なピアノコンクールにおいて第2位の成績を修め、学長表彰を授与された大学院1回生の友田麻衣子さんから「私たちがこのような賞を受賞できたのは、先生方や仲間、家族の存在があったからだと感謝しています。この感謝の気持ちを忘れずに、更なる成長を目指して日々精進していきます。」と謝辞が述べられました。

最後に、指導教員や顧問教員も交えて記念撮影を行い、改めて受賞の喜びを分かちあうと共に、今後の更なる飛躍を誓いつつ、表彰式を終えました。

4月22日～23日

留学生が1泊2日の学習旅行に行きました

日本語日本文化研修留学生、教員研修留学生、交換留学生18名が三重県答志島に1泊2日の学習旅行に行きました。

出発時は曇り空で雨が心配されましたが、2日間いいお天気に恵まれ、島の生活を実体験しました。

1日目は、船で島に渡った後、海女さんから話を聞きました。海女さんのコスチュームや道具を身に付けることもでき、島の生活と海の関わりを実感することができました。その後、島内に残っている伝統や生活習慣を巡るスタンプラリーを行いました。島の地図はありません。ポイントを見つけるために島民のみなさんに質問しながら目的の場所を捜します。はじめは恥ずかしがってなかなか質問できない留学生もいましたが、島のみなさんの温かい応対に全員無事にゴールすることができました。夜は、おいしい魚介類の夕食後、島の貝殻を使ったキャンドル製作、海ほたるの見学をしました。

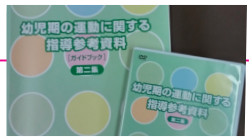
2日目は、島内の散策です。島を取り巻く海が一望できる富士見台に上って、美しい景色を堪能しました。答志島では、地元の小学生をはじめ島民のみなさんが島ぐるみで温かく私たちを迎えてくださり、交流を深めることができました。答志島のみなさん、本当にお世話になりました。

附属学校園ニュース

［附属学校園］http://www.nara-edu.ac.jp/guide/garden.html

附属幼稚園 3月

「幼児期の運動に関する指導参考資料」3月に全国配布



附属幼稚園では、「幼児期に必要な『からだ力』を育む」というテーマで5年間研究を続けてきました。『からだ力』とは、本園が考え出した言葉で「生涯にわたる健康な心や体をつくるために、幼児期に育みたい体力や運動能力、運動に対する意欲等」の総称です。5年間実践の研究を重ね、子どもたちの体や心がますますたくましくしなやかになってきたことを実感しています。2015年度には、文部科学省スポーツ庁の委託事業を受け、文部科学省制作の「幼児期の運動に関する指導参考資料」作成に協力し、本園の子どもたちが遊んでいる様子や日々の取り組みも掲載された冊子およびDVDが全国の幼稚園・こども園・保育園に3月末に配布されました。附属幼稚園の子どもたちの生き生きとした姿が全国に紹介されることにつながりました。

附属小学校 4月12日

やっと2年生になったなー

6年生に花を付けてもらって…

むかえる会では全校に紹介してもらいました

4月12日、90人の1年生が入学してきました。新入生一人ひとりを全校みんなであたたかく迎えた「1年生をむかえる会」。6年生が中心となってつくりあげ、大成功でした。「むかえる会がおわってやっと2年生になったなーとおもった。だれがあいぼうになるかたのしみすぎて2クラスをのぞいた。みんなてれてれしてた。」(2年生の日記)

1年生が入学してくることが、また入学してきたことが、こんなにも2～6年生のくらしを変えるのですね。

6年生は、「むかえる会」のめあてを“新しい仲間といっしょに楽しく一歩をふみ出せる会にしよう”と考えました。附小に来てくれた1年生に感謝、感謝です！

附属中学校 5月～6月

附属中学校ESDの中核行事である宿泊学習

附中でのESDの中核行事である各学年の宿泊行事を実施しました。1年生は5月18日より1泊で曽爾高原での野外活動、2年生は6月6日から2泊で三重県鳥羽沖答志島への臨海実習、3年生は5月21日より3泊で沖縄への修学旅行を実施しました。

1年生は、厳しい山道を約8km踏破する西浦峠登山や夕闇迫る中でのキャンプファイヤー、薪割りから始める野外炊飯での美味しいカレー作りなどを通して、友情を深め、附中での三年間をともに過ごす仲間との連帯感を高める絶好の機会となりました。ESDで養いたい力の一つである「自然との共生」を体感してくれたかと思います。

2年生は、今年は伊勢志摩サミットの影響で、実施時期が遅れましたが、初日の漁家訪問では、漁家のくらしや漁業環境の変化など貴重なお話をうかがいました。2日目は、理科の磯観察で、ヒトデや貝、海浜生物などの観察、スケッチ等を行いました。2年生は、奈良にはない海辺で、漁業を生業として暮らしておられる漁家さんからのお話を聞き取ることで、異なる文化に触れ、学び、環境問題についても理解を深めました。

3年生は、初日は平和祈念資料館見学、ガマの体験、平和集会、戦争体験者の方の講話、2日目は現地学生ガイドと共に、戦跡や基地などを巡り、民家宿泊体験をしました。3年生ではESDで特に大切にしている「いのち」「平和」というテーマに迫る深い学びができました。「戦争では人間の尊厳がたやすく踏みにじられること」「現実的な課題に取り組む力」などについて学びを深めるこの修学旅行は、本校ESDの学びの集大成として大きな意味を持つ宿泊行事として位置づけられています。

奈良に息づく仲間たち

［自然環境教育センター］
http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/

自然環境教育センター
准教授 辻野（つじの） 亮（りょう）

ソライロのキノコ

▲森の地面にソライロのキノコが立っている

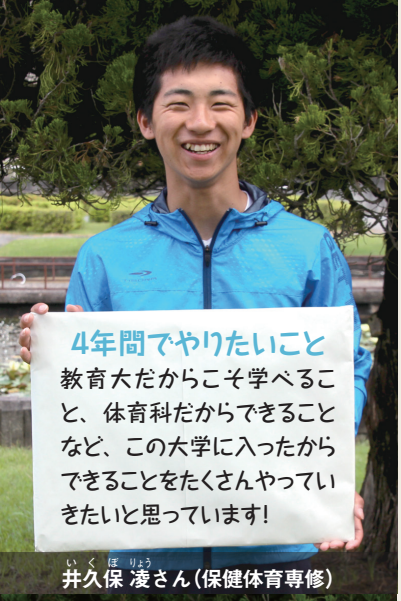
夏の森の中は木漏れ日を浴びて、土の色・落葉の色・葉の色が輝いている。そういう森を歩いていると、ハッと息をのむことがある。茶色と緑色の世界に、夏の空が見えるときが極稀にあるのだ。よく見ると、ソライロをしたキノコであり、少しねじれたソライロの柄がついたソライロの傘を開けている。傘の直径はおよそ3センチメートル、高さはおよそ6センチメートルの小さなキノコであり、まるで森の地面から空につながった小さな空の穴のようで、気持ちが吸い込まれる。

このキノコは夏の終わりの暑いころ、アカマツの混じった広葉樹林などに生えてくる。植物の葉が緑色であることとは対照的に、キノコの色にはいろいろな色が知られている。しかし青いキノコというのはとても珍しい。しかも、地表に出てきても小さなキノコが一度に数本しか出てこないものだから、見つけることは難しい。

見つけたとしても、このキノコに触ってはいけない。触ると空の青さが失われてしまい、黄色くなってしまうのだ。息をのんだ小さな驚きは、森から持ち出して誰かに伝えることはできず、見つけた者だけの密かな驚きとして胸にしまっておかねばならないのである。そこにあるからこそイキイキしているのである。

奈教生に聞きました！

vol.17



4年間でやりたいこと

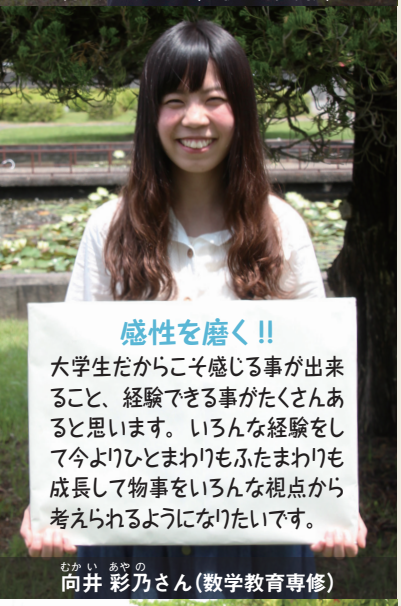
教育大だからこそ学べること、体育科だからできることなど、この大学に入ったからできることをたくさんやっていきたいと思っています!

井久保（いくぼ） 凌（りょう）さん（保健体育専修）

教育に携わるために!

私は将来教育にかかわる仕事がしたいと考えています。だからこそ、大学在学中に自分が何をしたいのか、何ができるのかをじっくり見極めたいと思います。

羽田野（はだの） 裕人（ひろと）さん（教育学専修）



感性を磨く!!

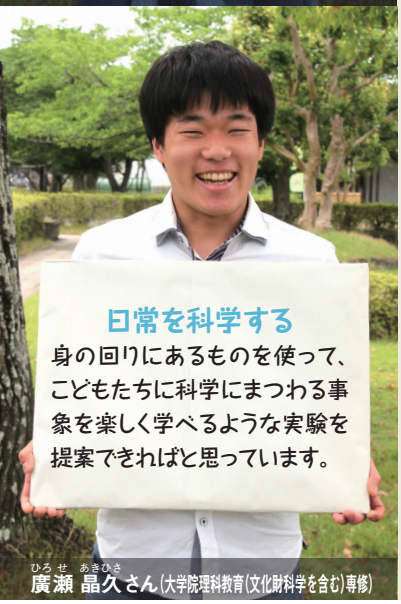
大学生だからこそ感じる事が出来ること、経験できる事がたくさんあると思います。いろんな経験をして今よりひとまわりもふたまわりも成長して物事をいろんな視点から考えられるようになりたいです。

向井（むかい） 彩乃（あやの）さん（数学教育専修）

出会いを大切に

この大学で出会う仲間、先輩、後輩、先生、すべての人との出会いを大切にして、誰からも信頼されるような教育者になりたい。

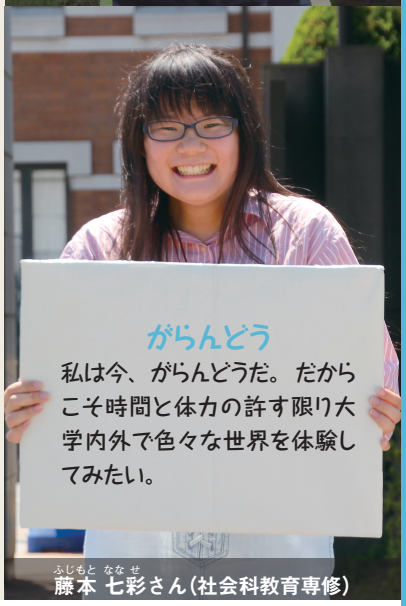
王子（おうじ） 修（しゅう）さん（理科教育専修）



日常を科学する

身の回りにあるものを使って、こどもたちに科学にまつわる事象を楽しく学べるような実験を提案できればと思っています。

廣瀬（ひろせ） 晶久（あきひさ）さん（大学院理科教育（文化財科学を含む）専修）



がらんどう

私は今、がらんどうだ。だからこそ時間と体力の許す限り大学内外で色々な世界を体験してみたい。

藤本（ふじもと） 七彩（ななせ）さん（社会科教育専修）

「奈教在学中にやりたいこと」

学生時代にしかできないことがたくさんあります。有意義な時間を過ごすためにも、しっかりと目標を持ち、取り組んで行きましょう。皆さんの取り組みを、大学教職員一同応援しています。

弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。
QR コード対応の携帯電話にて
アンケートにご回答いただけます。
皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

なっきょん's CLUB

広報誌づくりなど、広報活動をお手伝いいただける学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は総務課秘書・広報担当まで、お気軽にお問い合わせください。

国立大学法人 奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌『ならやま』
第52号　平成28年7月8日　編集／広報委員会　発行／国立大学法人奈良教育大学
3月・7月・10月各下旬発行
〒630-8528 奈良市高畑町　TEL.0742-27-9104　FAX.0742-27-9141　Email : kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp
※広報誌「ならやま」は大学ホームページからもご覧いただけます。
http://www.nara-edu.ac.jp/

■ 大学ホームページでは、わかりやすく迅速に情報を発信しています。ぜひご覧ください
■ Facebookで最新情報発信中!　https://www.facebook.com/NaraUniversityOfEducation

国立大学法人奈良教育大学　検索